

総合周産期母子医療センター（小児科部門）

1. スタッフ

部長（准教授）高橋 尚人
 病棟医長（助教）矢田ゆかり
 病院助教 小池 泰敬
 病院助教 俣野 美雪
 他、小児科と兼務

2. 総合周産期母子医療センター（小児科部門）の特徴

栃木県において総合周産期センターに認定された二施設のひとつとして、栃木県で出生するハイリスク新生児のほとんどを二分する形で診療している。地方の中核病院であり、入院するハイリスク新生児の疾患は、超低出生体重児から先天異常、外科疾患など多岐にわたる。勤務するスタッフは全員、診療科としては小児科に属しており、兼務である。

認定施設

日本周産期・新生児医学会認定研修施設

認定医

日本周産期・新生児医学会（新生児）専門医
 高橋 尚人

3. 実績・クリニカルインディケータ

1) 入院患者数

355名

院内出生 310名（母体外来観察例59名、母体搬送例51例、母体外来紹介200例）、院外出生45名（病院等からの搬送43例、自宅出生等2例）

院内出生率 87.3%

2) 人工呼吸器管理数・率

139/355例、39.2%

3) 生存率・死亡数等

年間死亡症例数14例

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	1	0	1	0.0
23	0			
24	5	3	2	60.0
25	2	2	0	100.0
26	3	3	0	100.0
27	7	7	0	100.0
28	11	11	0	100.0
29	10	9	1	90.0

30	8	7	1	87.5
31	12	12	0	100.0
32	16	16	0	100.0
33	20	20	0	100.0
34	26	26	0	100.0
35	33	31	2	93.9
36	28	27	1	96.4
37以上	173	167	6	96.5
計	355	341	14	96.1

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
< 500	3	2	1	66.6
< 750	9	8	1	88.8
< 1,000	10	8	2	80.0
< 1,250	17	17	0	100.0
< 1,500	18	18	0	100.0
< 1,750	29	27	2	93.1
< 2,000	46	43	3	93.4
< 2,500	60	58	2	96.7
> 2,500	163	160	3	98.1
計	355	341	14	96.1

4) 死亡症例内訳

在胎22週、IVH、敗血症
 在胎24週、肺低形成、PPHN
 在胎24週、高K血症、NEC
 在胎29週、ガレン静脈奇形
 在胎30週、18trisomy
 在胎35週、DORV、無脾症
 在胎35週、嚢胞腎、肺低形成
 在胎36週、気管無形成
 在胎37週、CDH、PPHN
 在胎37週、先天性水頭症
 在胎38週、HLHS、CDH
 在胎38週、18trisomy
 在胎39週、重症新生児仮死
 在胎40週、重症新生児仮死

5) 先天性心疾患入院例

有意な血行動態異常を呈する重症例49例。その内、胎児診断例17例で、入院後PICU転科・手術例7例が、NICU内での死亡が5例。

6) 多胎入院数

多胎59例
 （入院全体の16.6%）

7) 外科症例（手術例のみ）

39例

8) 逆搬送

状態が安定したあと、自宅退院でなく、搬送元の病院等に転院したものの13例。

4. 事業計画・来年の目標等

栃木県も他県と同様、周産期医療体制維持は容易ではない状況だが、今後も県内の他施設や行政と協力して、周産期医療体制の改善・維持を目指したい。

09年度、周産期医療に携わる人材を育成し、かつ幅広くその教育を行うことを目的として、当センター内に周産期教育支援部（JPEC）が創設された。NICUはこのJPECと共同し、10年度に多くの事業を展開する予定である。新生児ポケットマニュアルの全国的配布、栃木県の周産期施設に対しての隔月での新生児医療セミナーがその例である。

また現在、世界的に「新生児蘇生法」の標準化が進んでおり、当診療部門でも08年度から、日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法普及事業に基づく講習会を開催している。来年度も開催し、その普及に努めたい。

日本周産期・新生児医学会の専門医制度が始まり、現在、栃木県で唯一の専門医が認定されているが、さらに来年度以降も、専門医を増やしていきたい。